【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

［成果情報名］オウトウ「山形Ｃ12 号」（やまがた紅王）の選りもぎによる商品果率向上
［要　　約］オウトウ「山形Ｃ12 号」の収穫は、障害果の割合が低く抑えられ、商品果率、特秀品割合が高まることから、一斉収穫よりも複数回に分けて選りもぎする方法が適する。
［部　　署］山形県農業総合研究センター園芸農業研究所・果樹部
［連　絡　先］TEL 0237-84-4125
［成 果 区 分］普
［キーワード］オウトウ、山形Ｃ12 号、やまがた紅王、選りもぎ、果実障害、軽減、商品果率向上

［背景・ねらい］

オウトウ「山形Ｃ12 号」では、着色過多により果皮が赤黒くなる果実（以下、過着色果）及び果皮表面にカスリ状の障害が生じた果実（以下、カスリ果）等の発生が見られることから、選りもぎによる障害果の軽減及び商品果率向上について検討した。

［成果の内容・特徴］

1　「山形Ｃ12 号」の収穫は、特秀品割合が概ね 20%となった時期から 2～5 日間隔で複数回に分けて収穫適期となった果実を選りもぎする方法が一斉収穫よりも適しており、その効果は以下のとおりである。

（１）過着色果やカスリ果等の障害果の割合が低く抑えられることで商品果率が向上し、特秀品割合も高くなる（図１、図２）。

（２）果肉の軟化やウルミ果等果実品質に対する悪影響はみられない（表１）。

［成果の活用面・留意点］

1　本調査は、園芸農業研究所において、令和 6～7 年度に「山形Ｃ12 号」/コルト台（17～18 年生）3 樹を供試した結果である。

2　試験区は下記のとおりとし、収穫した果実を等級別及び障害果発生の有無別に重量を計測し、比率を算出した結果である。

試験区	収穫基準	収穫日
選りもぎ	・収穫開始は、特秀品割合が概ね20%となった時期を目安とした ・概ね特秀品（着色80%）に達した果実のみ収穫した	令和6年:6/8,12,17 令和7年:6/13,16,18,20,23
一斉収穫	・収穫盛期の4～5日後に一斉収穫した	令和6年:6/17,令和7年:6/23

※収穫期　令和6年:始期6/9、盛期6/13、終期6/20　　令和7年:始期6/13、盛期6/18、終期6/26

3　樹冠の外周部や樹上部等の日当たりの良い枝の果実は、着色及びカスリ症状が進みやすいので、食味を確認したうえで優先的に収穫する。

4　果実の熟度のばらつきが大きい場合は、着色・熟度の進んだ果実から選りもぎを行う。特に、収穫期に高温が予想される場合は、もぎ遅れないように、積極的に行う。

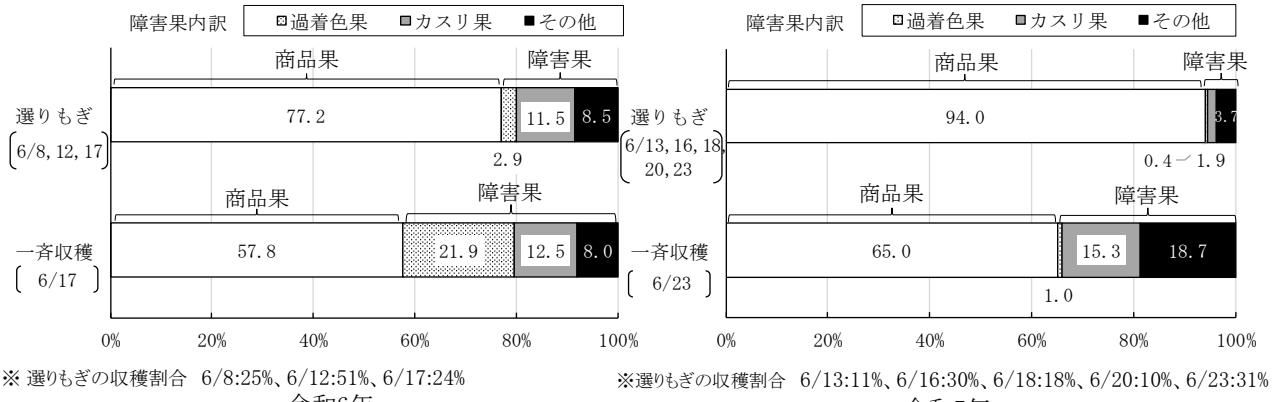
5　選りもぎを行った場合の階級割合は、一斉収穫と差はみられない（データ省略）。

6　関連する既往の成果（新しい技術の試験研究成果）

令和 7 年度「オウトウ「山形Ｃ12 号」（やまがた紅王）で見られるカスリ症状」（指）

令和 7 年度「オウトウ「山形Ｃ12 号」（やまがた紅王）におけるカスリ症状の発生条件」（指）

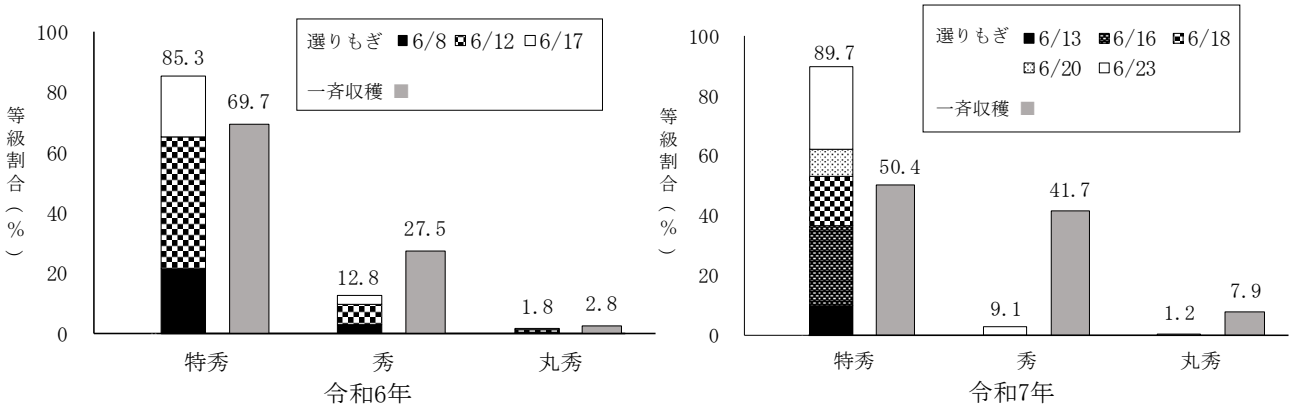
［具体的なデータ］



※ 選りもぎの収穫割合　6/8:25%、6/12:51%、6/17:24%
令和6年

※選りもぎの収穫割合　6/13:11%、6/16:30%、6/18:18%、6/20:10%、6/23:31%
令和7年

図１　収穫方法別の商品果割合



令和6年　　令和7年

図２　収穫方法別の等級割合

表1　収穫方法別果実品質

年	収穫方法	収穫日	1果重 (g)	着色程度 (%)	果皮[z]光沢 (0-3)	圧縮強度 (g)	内ウルミ[y] (0-3)	くぼみ[x] (0-3)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)
令和6年	選りもぎ	6/8	10.2	84	0.2	156	0.0	0.0	20.4	0.81
		6/12	10.4	84	0.2	120	0.0	0.1	21.0	0.83
		6/17	10.9	75	0.1	113	0.2	0.3	23.0	0.95
	一斉収穫	6/17	10.7	82	0.4	112	0.3	0.3	24.0	0.94
令和7年	選りもぎ	6/13	9.7	92	0.0	133	0.1	0.2	21.3	0.68
		6/16	10.1	88	0.0	136	0.1	0.1	20.0	0.73
		6/18	10.6	85	0.0	132	0.0	0.0	20.4	0.81
		6/20	9.9	83	0.0	107	0.1	0.0	20.5	0.78
		6/23	10.5	76	0.0	129	0.1	0.1	21.6	0.89
	一斉収穫	6/23	9.9	85	0.8	129	0.2	0.4	24.4	0.87

[z] 果皮光沢〔0:劣化なし　1:わずかに光沢が減少　2:明らかに光沢減少　3:光沢なし〕
[y] 内ウルミ〔0:水浸状なし　1:わずかに水浸状あり　2:横断面積の50%水浸状　3:横断面積の80%以上が水浸状〕
[x] くぼみ〔0:なし　1:わずかなくぼみがみられる　2:明らかなくぼみが1～2個　3:明らかなくぼみが3個以上〕

［その他］

研究課題名：おうとう新品種「山形Ｃ12 号」の生産性低下要因の解明及び対応技術の開発
予算区分：県単
研究期間：令和 7 年度（令和 6～8 年度）
研究担当者：丸川崇、安達栄介、黒田博、松田成美
発表論文等：なし